

# I . 事業の状況

## 1 総括

当研究所は、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的として、昭和41年に設立、特定公益増進法人の資格を与えられ、主として初等中等教育の分野で事業を進めてまいりました。

公益法人制度改革のもとで、平成24年に内閣府より公益財団法人の認定を受け、平成26年には医学・医療eラーニングを中心とする新たな公益事業が認められました。

本年度は次のような事業展開を行いました。

○ 小・中学校や研究団体への研究助成については、公募をへて小学校6校、中学校4校、1研究団体、1学会に助成を行いました。

研究テーマのキーワードは、ノーメディアデー、持続可能な社会の担い手、ICT反転学習、科学的思考、自尊感情の育成、論理的思考モデル、地域連携によるライフスタイルの構築、地域づくり、SSPプログラム、外来生物についての教材化、言語技術の活用、家庭教育学の構築などでした。

○ 前年度の研究成果は「教育研究情報」誌に掲載し、教育関係の諸機関・諸団体に教育資料として寄贈し、成果の普及を図りました。

○ 野外教育では、自然体験活動を指導する人や指導者をめざす人を対象とする講習会を、文部科学省などの後援を得て、群馬県や長野県で開催しました。また、野外情報を掲載した「野外教育情報」ニューズレターを発行し、関係諸機関・諸団体へ寄贈しました。

○ 医学・医療分野での教育及び教育技術の刷新充実に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修、いわゆるeラーニングを計画あるいは実施している学会などに対して働きかけを行いました。映像コンテンツ等を収録し、当研究所の保有するMEDIA@（メディアット）システムによりネット上に配信する事業を展開しました。一般社団法人日本癌治療学会などと連携して、総会・学術集会の内容の配信、がん医療ネットワークナビゲーターの資格認定のためのeラーニングの管理・運営など、成果を挙げつつあります。

○ 視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の共同主催事業については、第13回を実施し、国内・海外部門の表彰者を発表しました。入選作は点字本にて公共図書館に寄贈しました。

○ スポーツによる教育（ゴルフアカデミー）では、第2年めで募集広報を強化しましたが、定員に満たずやむなく休止としました。

今後とも、公益認定事業の中で新たな展開を図っていく所存ですので、ご支援とご協力をお願いする次第です。

## 2. 助成等事業概要

### A. 研究実践校への助成

《時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざした意欲的な研究に取り組んでいる学校に対して、公募のうえ、助成を行った。》

- ① 特別活動 福島県 西郷村立 小田倉<sup>おだくら</sup>小学校 (校長：佐藤雅義)  
テーマ 『子どもの生活習慣・家庭学習習慣の改善・定着を目指して』  
— 西郷村ノーメディアデーの取り組みを通して —  
趣旨 平成26年度から小中・地域連携として始まった「西郷村ノーメディアデー」のもとに、携帯・スマホ・ゲーム機などメディアとの接触時間を減らす取り組みを進めた。ノーメディアめあてカードの作成、保護者向けに子ども達のメディア漬けの危険を伝える講演会の実施、国立青少年教育施設でのさまざまな宿泊体験学習等を通して、よりよい生活習慣・家庭学習習慣の改善につとめた。
- ② 総合学習 新潟県 新潟市立 新潟小学校 (校長：近藤 朗)  
テーマ 『地域社会と一体となって、持続可能な社会の担い手を育てる教育』  
趣旨 学ぶことと社会とのつながりを意識した教育活動を地域と連携して展開することで、新しい時代に必要な資質・能力の育成を図った。子ども達は地元の古町商店街に出かけて話を聞き、地域の活性化のためにできることを考えた。古町の歴史や特色を9つのテーマにしぼり、それを表現した「古町スイーツ」を企画し、職人に依頼して商品化して販売する実践を行った。
- ③ ICT教育 静岡県 東海大学付属小学校 (校長：鮎川真由美)  
テーマ 『学び合うことの楽しさを実感する授業の開発』  
— 反転学習の活用と体験を通じた知識の定着を目指して —  
趣旨 授業を「知識の受け渡しの間」から「学びの体験の間」に変えるために、特に音楽科において、効果的な反転学習の授業づくりを行った。ICT機器を活用して、児童の実態に即した動画の作成を行い、基礎力・思考力・実践力を身につけさせる新しい学習手段の構築の試みを行った。
- ④ 理科・生活科 滋賀県 守山市立 物部小学校 (校長：園田和美)  
テーマ 『「言いたい」「伝えたい」科学的思考を深め合う子どもの姿を求めて』  
趣旨 科学的思考を深め合う子どもを育てるため、授業においては、予想・仮説・実験・考察の流れをわかりやすく提示できるように、学年ごとにフラッシュカードを作成し定着を図った。検証は各学年の研究授業の中で進めた。また、理科コーナーや中庭のピオトープなど環境面を整えて、自然科学への興味を持たせる工夫をした。
- ⑤ 人権教育 大阪府 堺市立 大仙小学校 (校長：寺本文代)  
テーマ 『聴き合い学び合う授業づくり・学校づくり』  
趣旨 子どもたちが「話をしっかり聴く」ことで相手の存在を認め尊重する授業、子どもたちが自分を肯定的に評価し、自尊感情を育てるような授業に変革していくことをめざした。そのため教職員は研修を積み、自主公開授業研究会を行った。さらに数度の校内授業検討会において専門家の指導・助言を受けた。
- ⑥ 理科教育 広島県 広島市立 鈴が峰小学校 (校長：藤原卓哉)  
テーマ 『かかわり合い、伝え合いながら、思考を深める子どもの育成』  
— 論理的思考モデルを用いた言語活動をとおして —

趣旨 論理的思考モデルを明確にしていくことを研究の中心とした。論理的思考力の育成による判断力・表現力の向上、言語活動を意識した授業の展開、「聞く」「話す」活動に重点を置いた協同的学習、考えるために書く活動とノート指導などに取り組んだ。実践の振り返りと改善は校内研修を通して行った。

⑦ 情報教育 秋田県 鹿角市立 八幡平中学校 (校長：澤口康夫)

テーマ 『望ましいライフスタイルの構築を目指して』  
— 幼・保・小・中による取組を通して —

趣旨 地域の子どもたちの課題であるメディアとの関わり方について、幼保小中の保護者とその課題を共有し、地域を巻き込みながら実践に取り組んだ。幼保小中の教職員及びその保護者との課題の共有→調査の実施と分析→幼児・児童生徒及びその保護者と教職員の学習機会の構築→保護者・地域を巻き込んだ啓発活動の展開→「はちまんたい教育の日」(3年に一度開催)における、ノーメディア学習会の企画と実践。以上のプロセスにより展開した。

⑧ 生徒指導 岡山県 岡山市立 <sup>おかき</sup>岡輝中学校 (校長：片山安基夫)

テーマ 『子どもたちが愛されていると実感できる学校づくり』  
— 地域づくりを目指して —

趣旨 地域の中にある学校園(六校園)として、当校と2小学校、1幼稚園、2保育園が地域協同学校として連携して、0歳から15歳までの一貫した子育て・教育の実現を目指した。また、「不登校の子どもをなくす」「授業を離脱する子どもをなくす」「学力を向上させる」目的で始めた協同学習が教職員の異動などで崩れずに続くように、理念・哲学・方策を継続・継承させつつ、内容の充実につとめた。

⑨ 総合学習 福岡県 筑紫野市立 <sup>ちくざん</sup>筑山中学校 (校長：新開哲士)

テーマ 『感じ考え、行動できる生徒の育成』  
— SSPプログラムの活用を通して —

趣旨 SSP (Smart Student Program) を継続的に実施し、スマホやネットとのつきあい方を生徒が再考して、日常生活につなげる力を養わせる。メディア依存に陥らせないために、自己肯定感、自己表現力と対話力、メディアコントロール等の向上を図る。PTA・地域と連携してスマホ・ネットの危険性を啓発する地域ミーティングやアンケートの実施、家庭でのルールづくりを進めた。

⑩ 教科・領域 沖縄県 宜野湾市立 <sup>ぎのわん</sup>宜野湾中学校 (校長：山内一秀)

テーマ 『生物多様性のための環境保全の態度を育成する理科教育』  
— 外来生物を教材とした実践を通して —

趣旨 身近には多様な生物が存在するが、近年、固有の生物数が減少している。原因の一つに外来種による被害がある。そこで、本校教員が調査を行い授業の教材を開発して授業実践を行う、外部講師を招き外来生物の講話を実施する、クラブ活動で外来生物の自由研究を行う、生徒アンケートを行う、などの研究実践により、生徒の知識を向上させ、外来生物への対応策を考えさせることができた。

計 2,000,000円

B. 教育現場(地域研究団体)への助成

《地域等で特色のある研究や実践を行っている研究団体や学会に対して助成を行った。》

① 高知県/言語技術教育研究会 代表 梶原和美(香美市立山田小学校教諭)

テーマ 『言語活動の充実を図る言語技術を使った授業展開の研究』

趣旨 思考力・表現力を育む言語活動の充実を図るため、言語技術を使った授業展開の研究と実践を行い、高知県東部地域における教員のスキルアップを5回にわたる研修会を通して行った。研修会では「ことばの力と言語活動」に焦点をあてた。

② 日本家庭教育学会 会長 中田雅俊（八洲学園大学教授）

テーマ 「家庭教育に関する理論的・実践的研究」  
— 家庭教育をどう推進するか —

趣旨 主たる活動は、大会の開催（第30回）である。大会主題としては「わが提言 — 家庭教育をどう推進するか」を掲げ、中田会長の記念講演、4名の代表発表、個人研究発表などを行った。その他、家庭教育学構築のためのワーキンググループの研究会、学術研究論文集「家庭教育研究21号」の編集・刊行、会報発行を行った。

計 400,000円

### C. 野外教育活動の推進

《野外教育活動〔とくに自然体験活動〕のいっそうの充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施した。また、自然体験活動に関する情報と実践等を集めた「野外教育情報」ニュースレターを発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、知見の普及を図った。》

#### ○ 野外教育活動の指導者講習会の開催

文部科学省・日本キャンプ協会の後援を得て、野外教育指導者の養成と指導技術の向上を図る目的で実施。学校教育、社会教育、学生、民間団体の関係者など、野外教育の指導者および指導者を目指す者を対象に、パッケージド・プログラム（アイオレシート）を教材にして、指導方法、活動プログラム、安全管理、ゲーム創作などを、6人の講師による実習形式で指導した。1都1府12県からの参加があった。

平成27年10月10日～10月12日（2泊3日）

場所：「国立赤城青少年交流の家」（群馬県前橋市富士見町赤城山27）

長野県においては、日帰りコースの講習会を現地NPO法人の協力を得て1回実施した。

平成27年10月16日 場所：「長野県須坂青年の家」

#### ○ 『野外教育情報』ニュースレターの発行・配布

野外教育に関する記事・情報を掲載した、機関誌ニュースレターを2回発行した。平成27年7月に〔特集：私の好きなフィールド〕、平成28年2月に〔特集：座右の書〕を発行して、教育センター・教育研究所、教育委員会（都道府県・主要市）、青少年教育施設、小・中学校、大学、野外教育指導者・研究者など約1,200個所に配布（寄贈）した。

計 3,227,634円

### D. 医学・医療教育及び教育技術への研修支援

《医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修（いわゆるeラーニング）を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MEDIA@（メディアアット）システムの導入と運用、データ管理、コンテンツ等の制作と配信などに対して、支援を行った。》

#### ○ 総会・学術集会等のネット配信のためのコンテンツ制作・配信

一般社団法人日本癌治療学会第53回学術集会、一般社団法人日本アレルギー学会第64回学術集会、日本小児アレルギー学会第52回総会など、各医学会の講義・講演を収録し、インターネット上に配信するコンテンツを制作して支援した。

#### ○ 資格認定のためのeラーニングの構築・運用

がん医療情報の国民への提供とその制度の確立をめざし、国民の福祉に貢献すること

を目的に、地域でのがん医療情報を収集・提供する「がん医療ネットワークナビゲーター」を養成する制度がつくられたことに伴い、一般社団法人日本癌治療学会のもとで、その資格認定のためのeラーニングシステムの整備・運用に協力し支援した。

○ 医学系大学のeラーニングへの協力

医学・医療情報のコンテンツを大学生・卒業生に提供するeラーニングの構築（鶴見大学）ほか、女性医師の復職等を支援するためのコンテンツの制作（東京女子医科大学）などに協力してきたが、本件についてはこの年度をもって終了した。

○ 団体等の市民公開講座のインターネット配信

独立行政法人日本環境保全機構が行う市民のための公開講座において、講演を収録・配信（LIVE配信を含む）して、一般市民が広く視聴できるように支援した。また、アレルギーを考える母の会などのコンテンツ制作・配信を支援した。

計 36,573,291円

E. 研究報告誌の刊行・配布

《前年度に研究助成を行った研究成果を掲載した研究報告誌を年1回発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、成果の普及を図った。》

『教育研究情報』第47号（研究実践校・研究団体・学会の研究成果と実践報告を掲載）を平成27年10月に発行して、教育センター・教育研究所、教育委員会、教育課程をもつ大学、小・中学校の一部など、教育関係の諸機関・諸団体約800個所に配布（寄贈）した。

計 745,366円

F. 世界点字作文コンクールへの支援

《視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築く願いをもって、毎日新聞社点字毎日・オンキヨー株式会社との共催で、第13回コンクールを実施した。》

国内部門では、応募総数181編を選考の結果、最優秀オーツキ賞は岐阜県の山本道子さん、今回新設の「作詞賞」には鳥取県の藤森里枝さんが受賞した。

海外部門では、アジア・太平洋地域で8か国30編、西アジア・中央アジア・中東地域で9か国27編、ヨーロッパ地域で14か国44編、北米・カリブ地域で2か国30編の応募があり、それぞれ選考を行って優秀作品を表彰した。

入選作品集は、全国の公共図書館などに寄贈した。

計 3,000,000円

G. スポーツによる教育：ゴルフアカデミー

《ゴルフスポーツのもつ教育的効果に着目し、小学生・中学生を対象として、ゴルフの基本的な知識や技術等を通して、豊かな人間性、コミュニケーション能力などを養うねらい。》

平成26年度から開始したものだが、本年度は募集をしたものの定員に達せず、やむなく事業を休止した。

計 16,200円

H. 調査研究・開発

医学・医療従事者のインターネットによる学習・研修を支援するため、eラーニングに関して、その利用を計画したり実施している学会・団体等の調査、eラーニングの利用促進をいっそう図るための学会や団体への働きかけなど、業務委託をして進めた。

計 3,600,000円